



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) トヨタ部品北海道共販(株)新川営業所	階数	2
建設地	北海道札幌市北区新川2条6丁目501-1A	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	40人
建物用途	事務所・工場	年間使用時間	2,085時間/年(想定値)
竣工年	2019年2月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	4,959 m ²	評価の実施日	2018年6月22日
建築面積	2,065 m ²	作成者	成田 康博
延床面積	2,297 m ²	確認日	2018年6月22日
		確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

環境品質 G

環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	88%
③上記+②以外の	88%
④上記+	88%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境(敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 2.6

Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.8

音環境	2.7
温熱環境	2.2
光・視環境	2.4
空気質環境	4.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.0

機能性	2.6
耐用性	2.8
対応性	3.6

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.1

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性	2.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 2.8

LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.8

建物外皮の	5.0
自然エネルギー	3.0
設備システ	2.7
効率的運用	2.5

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.9

水資源保護	2.2
非再生材料の	3.1
汚染物質回避	3.3

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.7

地球温暖化	3.4
地域環境	2.5
周辺環境	2.4

3 設計上の配慮事項

総合	
<ul style="list-style-type: none"> ・建物の入口は住宅地側を避けて、車両の出入りをなくし安全に配慮。 ・住宅地側の境界にコンクリート塀を作り、遮音とプライバシーに配慮 ・倉庫の作業環境の向上 	A 省エネルギー <ul style="list-style-type: none"> ・建物は倉庫部分も含め外断熱を外壁(腰壁除)、屋根に採用 ・事務所部分の外部開口部にはLow-Eガラスを採用
B 省資源等 <ul style="list-style-type: none"> ・グリーンマーク、エコマーク商品の採用に配慮 	C 緑化 <ul style="list-style-type: none"> ・札幌市緑化条例を超える緑化率 23.59% > 20% ・住宅地側の境界に植栽し、環境に配慮
	D 雪処理 <ul style="list-style-type: none"> ・冬期間の堆雪スペースを敷地内に確保

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.3)
 (仮称) トヨタ部品北海道共販(株)新川営業所

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.3)
 欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体-共用部分		住居-宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質							2.6	
Q1 室内環境				0.33			2.8	
1 音環境			2.7	0.15			2.7	
1.1 室内騒音レベル			2.0	0.40				
1.2 遮音			3.4	0.40				
1 開口部遮音性能			3.0	0.60				
2 界壁遮音性能		壁仕様 ALC版t100+LGS+PBt12.5、LGS+両面PBt12.5 2枚貼り	4.0	0.40				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音			3.0	0.20				
2 温熱環境			2.2	0.35			2.2	
2.1 室温制御			2.5	0.50				
1 室温			2.0	0.38				
2 外皮性能	省エネ	平均熱貫流率 (外壁 U=0.55、屋根 U=0.36、外気に接する床 U=0.28) 窓システム SC = 0.5、U = 3.66	4.0	0.25				
3 ゾーン別制御性			2.0	0.38				
2.2 湿度制御			2.0	0.20				
2.3 空調方式			2.0	0.30				
3 光・視環境			2.4	0.25			2.4	
3.1 昼光利用			2.8	0.30				
1 昼光率			2.0	0.60				
2 方位別開口								
3 昼光利用設備	省エネ	事務所 - 3面採光、倉庫 - 高側窓	4.0	0.40				
3.2 グレア対策			2.0	0.30				
1 昼光制御	省エネ		2.0	1.00				
2 映り込み対策								
3.3 照度			2.0	0.15				
3.4 照明制御			3.0	0.25				
4 空気質環境			4.0	0.25			4.0	
4.1 発生源対策			5.0	0.50				
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材の全面的使用、VOC少放散量建材の使用	5.0	1.00				
4.2 換気			3.0	0.30				
1 換気量			3.0	0.33				
2 自然換気性能			3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.33				
4.3 運用管理			3.0	0.20				
1 CO ₂ の監視			-	-				
2 喫煙の制御			3.0	1.00				

Q2 サービス性能				0.30	-	-	3.0
1 機能性				2.6	0.40		2.6
1.1 機能性・使いやすさ				2.3	0.40		
1	広さ・収納性			3.0	0.33		
2	高度情報通信設備対応			1.0	0.33		
3	バリアフリー計画			3.0	0.33		
1.2 心理性・快適性				2.6	0.30		
1	広さ感・景観 (天井高)			2.0	0.33		
2	リフレッシュスペース			3.0	0.33		
3	内装計画			3.0	0.33		
1.3 維持管理				3.0	0.30		
1	維持管理に配慮した設計			3.0	0.50		
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50		
2 耐用性・信頼性				2.8	0.30		2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80		
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30		
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.20		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源		2.0	0.20		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源		3.0	0.10		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源		3.0	0.10		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	主要用途上位3種の、2種以上にC以上使用	4.0	0.20		
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源		3.0	0.20		
2.4 信頼性				2.4	0.20		
1	空調・換気設備			3.0	0.20		
2	給排水・衛生設備			1.0	0.20		
3	電気設備			3.0	0.20		
4	機械・配管支持方法			3.0	0.20		
5	通信・情報設備			2.0	0.20		

3 対応性・更新性			3.6	0.30		-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30		-	
1 階高のゆとり		3.9m以上(4.3m)	5.0	0.60		-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率 197/1881.56=0.10	4.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性		構造部材を痛めることなく 修繕、更新できる	4.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性		更新に対応した仮設スペースの確保、建物機能の維持	4.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.37		-	2.1
1 生物環境の保全と創出	緑化		1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		1.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	2.8
LR1 エネルギー			-	0.40		-	2.8
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BPI = 0.56	5.0	0.06		-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.12		-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEIm] = 0.85	2.7	0.59		-	2.7
4 効率的運用			2.5	0.23		-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00		-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制	省エネ		2.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1 モニタリング	省エネ			-		-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	2.9
1 水資源保護			2.2	0.20		-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60		-	3.1
2.1 材料使用量の削減	省資源		2.0	0.11		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.22		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	内装材と設備が錯綜せず、解体・改修・更新の際に容易に取り外せる	4.0	0.22		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20		-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		対象建材が接着剤のビニル床用と壁紙用の2項目	4.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	
1 消火剤	省資源		-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源	ODP=0.01未満かつ、GWPの低い発泡剤を用いた断熱材を使用	4.0	0.50		-	
3 冷媒	省資源		2.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	2.7
1 地球温暖化への配慮	省資源	ライフサイクルCO2排出率が、一般的建物と同等	3.4	0.33		-	3.4
2 地域環境への配慮			2.5	0.33		-	2.5
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 悪化 雪処理		2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		1.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制		適切な量の駐車スペースの確保、管理車両や荷捌き車両の駐車スペースの確保、駐車場導入路の配慮	4.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	ゴミ種類や量の推計、室内外にゴミ分別ボックスの設置、除排雪のための配慮、堆雪スペースの確保	4.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			2.4	0.33		-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1 騒音			3.0	1.00		-	
2 振動			-	-		-	
3 悪臭			-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			1.6	0.40		-	
1 風害の抑制			1.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制				-		-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70		-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.3)

1 建物概要		BEE	0.7	BEEランク	B ⁻
建物名称	(仮称) トヨタ部品北海道共販(株)新川営業所				
建物用途	事務所,工場,				
延床面積	2,297.0 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★☆	<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>雪処理</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★★★★★	

3. 重点項目のCASBEEスコア					
A 省エネルギー (最高点 22.4 最低点 6.7)		合計 12.7点 /22.4点			
Q1 温熱環境	スコア 0.6 /0.8	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア 1.2 /1.2		
Q1 光・視環境	スコア 0.9 /1.7	LR1 自然エネルギー利用	スコア 1.4 /2.3		
		LR1 設備システムの高効率化	スコア 6.3 /11.7		
		LR1 効率的運用	スコア 2.3 /4.7		
B 省資源等 (最高点 24.2 最低点 7.8)		合計 13.6点 /24.2点			
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.6 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア 5.6 /9.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.6 /2.8	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア 1.3 /1.9		
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア 3.4 /5.0		
		LR3 地域環境への配慮	スコア 2.1 /4.4		
C 緑化 (最高点 18.2 最低点 3.6)		合計 7.1点 /18.2点			
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 1.1 /5.5	LR3 地域環境への配慮	スコア 1.0 /2.5		
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 4.4 /7.4				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.6 /2.8				
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)		合計 3.0点 /3.0点			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア 2.0 /2.0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数
 ■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数